

個人投資家向け会社説明会

ダイトロン株式会社

証券コード: 7609 東証1部

目次

- 会社概要及び事業内容
- 第9次中期経営計画について
- 業績ハイライト
- 株式情報

会社概要及び事業内容

会社概要



商 号
設 立
本 社
代 表 者
資 本 金
従 業 員 数
売 上 高
事 業 内 容

連 結 子 会 社
株 式
証 券 コ ー ト
認 証

ダイトロン株式会社

1952(昭和27)年6月24日

大阪府大阪市淀川区宮原4-6-11

代表取締役社長 前 績行

22億70万8,560円

連結:795名

連結:596億62百万円(2018年12月期)

電子機器及び部品、各種製造装置等の製造・販売
上記の輸出入業務

9社

東証1部上場

7609

ISO14001 ISO9001



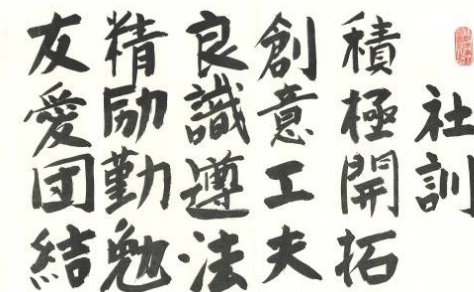
本社(大阪府大阪市)

【創業の精神】

「きびしい仕事 ゆたかな生活」

【行動規範】

積極開拓 創意工夫 良識遵法
精励勤勉 友愛団結

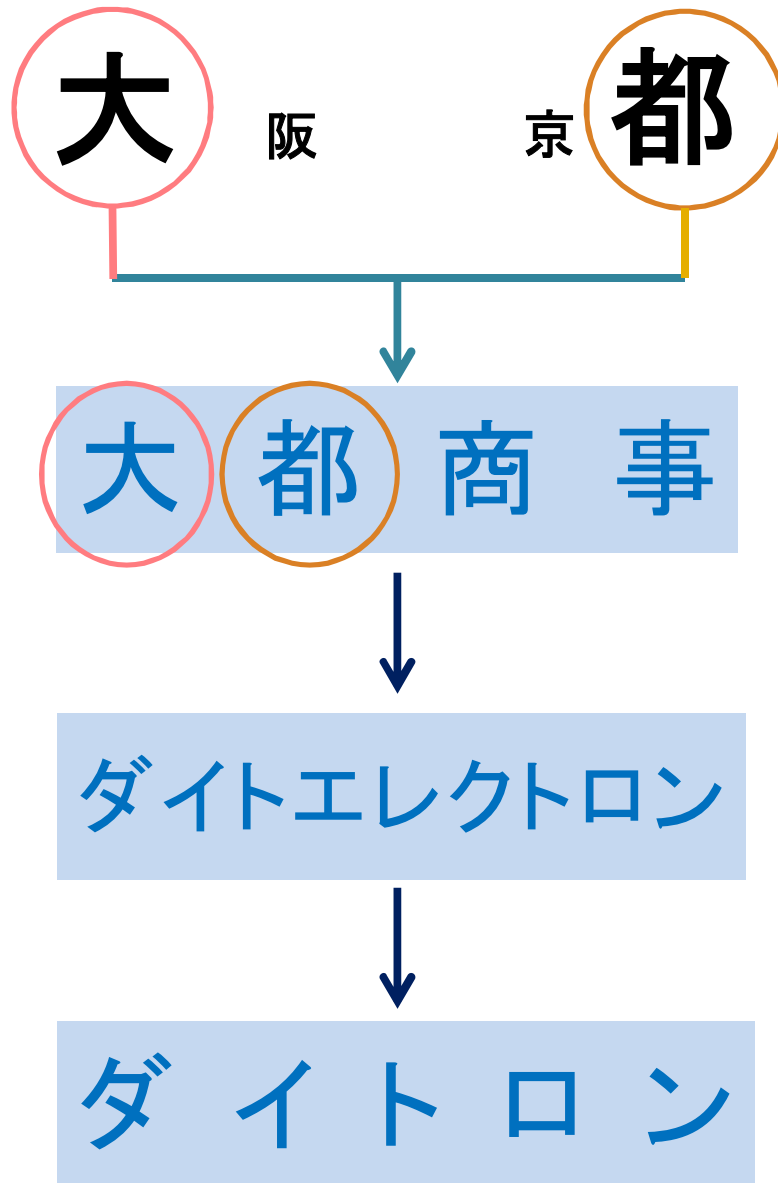


【経営理念】

- 我が社は、社員の自己実現を尊重し完全燃焼を期するがため、真に働き甲斐のある快適な職場創りを目指します。
- 我が社は、株主・顧客・仕入先に対して満足の提供に努力致します。
- 我が社は、絶えずグローバルな視野に立って、技術革新と高付加価値の創造に挑戦していきます。
- 我が社は、絶えず感謝の念をもって社会に貢献していきます。

ダイترون 社名の由来

Daitron

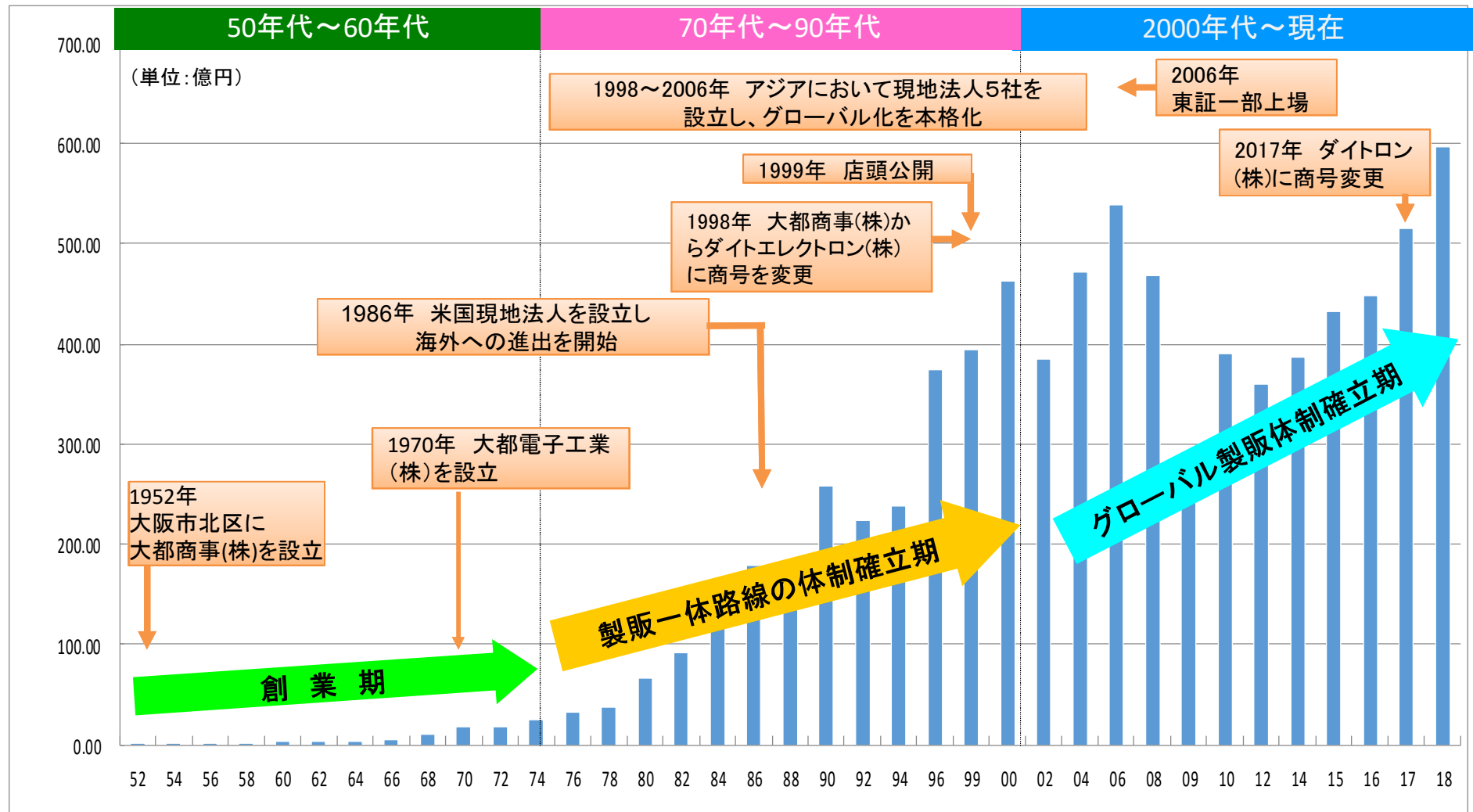


1952年 高本善四郎氏(京都府出身)が、大阪市北区に資本金30万円にて大都商事 株式会社を設立。
東京通信工業(株)(現ソニー(株))の特約店となり、当時珍しかったテープレコーダの販売に注力。

1998年 大都商事(株)からダイトエレクトロン(株)に商号を変更

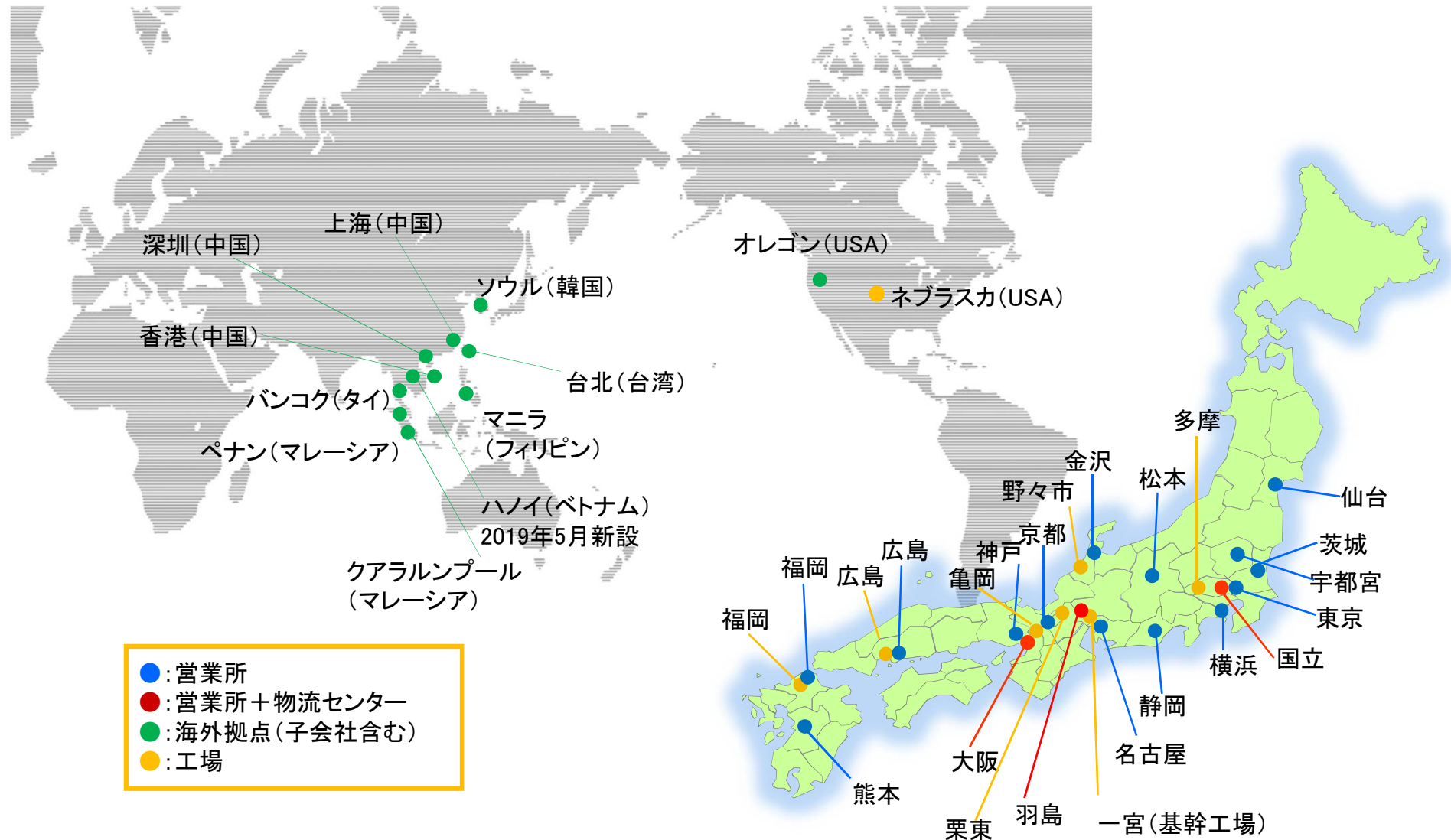
2017年 国内子会社のダイトデンソー(株)、ダイترونテクノロジー(株)と合併し、ダイترون(株)に商号を変更

Daitron



注) 1998年より連結決算を開始。グラフの売上高は1998年以降は連結ベース。それ以前は単体ベース。 (売上高実績)

国内24拠点(内7工場)・海外12拠点(内1工場)



①製販融合路線のグループ編成

②先見力とマーケティング力



③業界トップクラスの物流サービス機能

④優良な顧客資産と口座数の多さ

組織体制 「2本部2カンパニー制」



代表取締役社長

※カンパニー名の意味は、下記を表しております。
「M&S」・・・マーケティング&セールス
「D&P」・・・ディベロップメント&プロダクション
※従業員数は2019年9月末時点の人数です。

海外事業本部

管理本部

M&Sカンパニー

D&Pカンパニー

【事業内容】

海外市場における電子機器・部品、各種製造装置等の販売及び輸出入

海外グループ会社の管理

【従業員数】

54名（パートアルバイト含む）

参考【海外拠点人数】

145名（パートアルバイト含む）

ダイトロン INC.

ダイトロン(マレーシア)SDN.BHD.

大都電子(香港)有限公司

大途電子(上海)有限公司

大途電子(深圳)有限公司

ダイトロン(韓国)CO.,LTD.

ダイトロン(タイ)CO.,LTD.

【事業内容】

電子機器及び部品、各種製造装置等の仕入・販売

【従業員数】

428名

（パートアルバイト含む）

<部品事業>

【事業内容】

電子機器・部品等の製造

【事業領域】

ワイヤーハーネス、耐水圧コネクタ、スイッチング電源、UPS（無停電電源装置）

【従業員数】

259名（パートアルバイト含む）

<装置事業>

【事業内容】

各種製造装置等の製造

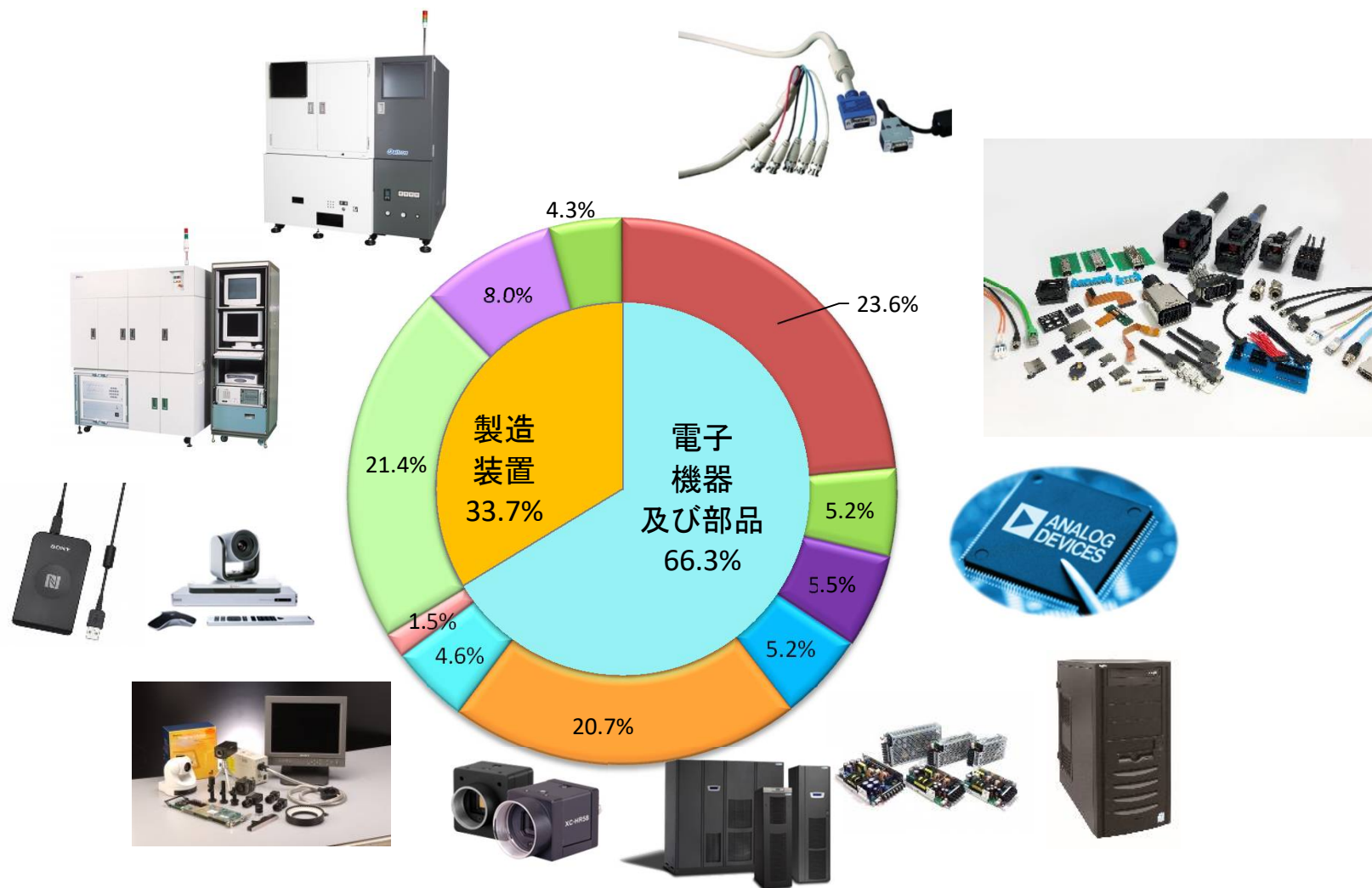
【事業領域】

半導体製造装置、光電子関連

【従業員数】

108名（パートアルバイト含む）

セグメント別売上高構成比 (19年9月末実績)



■ 電子部品 & アセンブリ商品

■ 画像関連機器・部品

■ 電子部品製造装置

■ 半導体

■ 情報システム

■ 製造装置その他

■ エンベデッドシステム

■ 電子機器及び部品のその他

■ 電源機器(グリーン・ファシリティ含む)

■ 半導体・FPD製造装置

セグメント別 取扱商品群 【電子機器・部品】

Daitron

電子部品 & アセンブリ商品



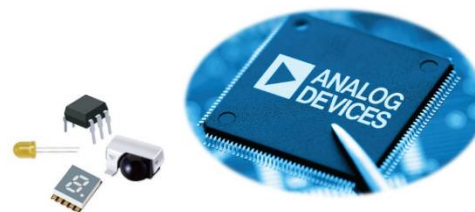
各種コネクタ・ハーネス



ハーメチックコネクタ

オリジナル製品

半導体



LED・光学素子

アナログ・高周波IC

エンベデッドシステム



産業用カスタムPC

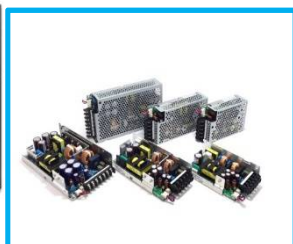


産業装置用組込PC

電源機器



無停電電源装置



超低ノイズスイッチング電源

オリジナル製品

画像関連機器・部品



照明



カメラ



レンズ



非接触ICカードシステム

情報システム



ビデオ会議システム

半導体・FPD製造装置



リフトオフ装置

オリジナル製品



有機EL発光検査装置

オリジナル製品



ウェーハ面取機

オリジナル製品



ウェーハ片面研磨機

電子部品製造装置



スクライブ・ブレイク装置

オリジナル製品



LDチップテスター

オリジナル製品



LD/LEDエージング装置

オリジナル製品



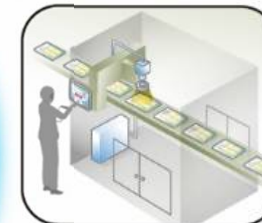
電極シート検査装置

キーワード IoT

データセンター構築



センサーによる異常監視



あらゆるモノがインターネットにつながる環境が、産業機器へも本格的に普及。ネットワークやセンサー事業への活発な投資状況を受け関連分野へフォーカスしていく



製造時における
画像認識システム

キーワード 自動化

生産性向上のため産業の自動化が急速に進行。マシンビジョンなどを中心にロボット産業分野へフォーカスしていく



自動車の電子化

キーワード 半導体

中国製造2025の動きもあり、世界的な半導体材料メーカーの需要増を受けて半導体関連市場へフォーカスしていく



スマホの高機能化

第9次中期経営計画 (9M)

1 新グループ・ステートメント

Creator for the ***NEXT***

エレクトロニクス業界を担う企業として、グループのネットワークを活かし、新しい価値をクリエイトする決意の表明

対外的メッセージ

「グローバルな観点で市場を捉え、お客様ニーズの一步先の価値を創造し、提供する」という意志を表明

社内的メッセージ

「常に次なる事業を創造し、さらなる成長のステージへ挑戦する」というスピリットを表明

N : Network

E : Engineering

X : (Synergy)

T : Trading

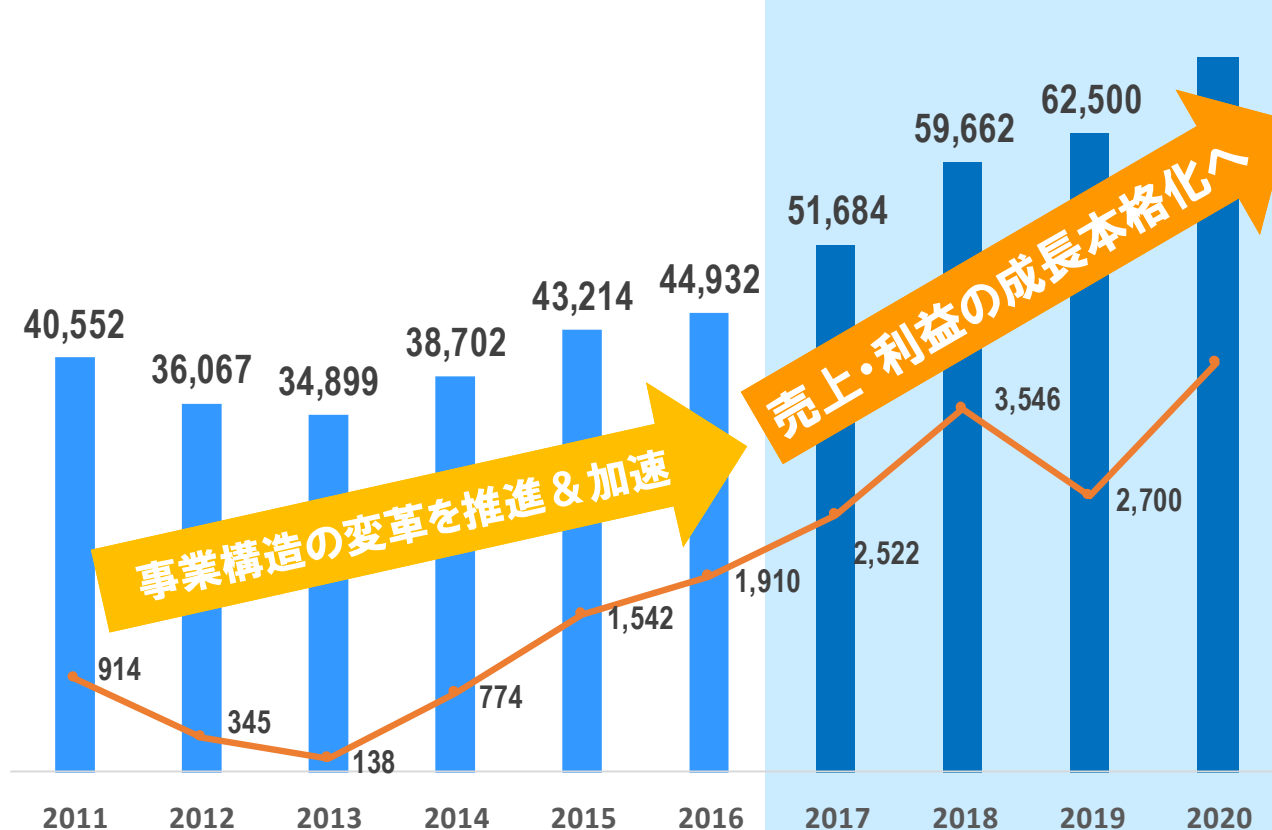
2 目指す姿

- **製販融合の他に類を見ないユニークな企業**
 - 顧客から見た場合「頼もしく」、仕入先から見た場合「安心感」のある
 - 商社の「ダイナミズム」とメーカーの「可能性・着実性」を併せ持った
- **業界にとって、なくてはならない特徴ある技術・製品を有する企業**
- **社員にとって働き甲斐があり、誇りに思える企業**
- **一致団結の強さと同時に自律能動的に動く組織**

1) 数値目標(連結)

■ 売上高 ■ 営業利益

(単位: 百万円)



【2020年 数値目標】

売上・利益の持続的な
成長により
過去最高実績を越えて
更に先の成長を目指す

【目標とする経営指標】

自己資本比率

50%

ROA

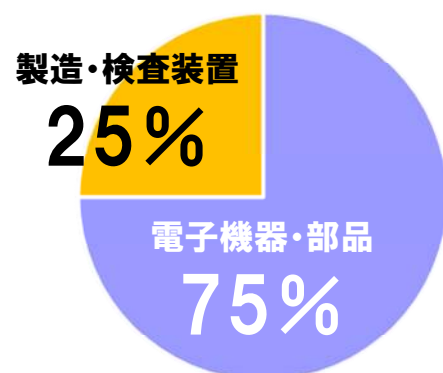
4%以上

ROE

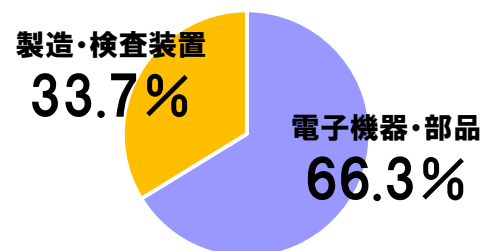
8%以上

部門別構成比
(売上高ベース)

【2020年 目標】

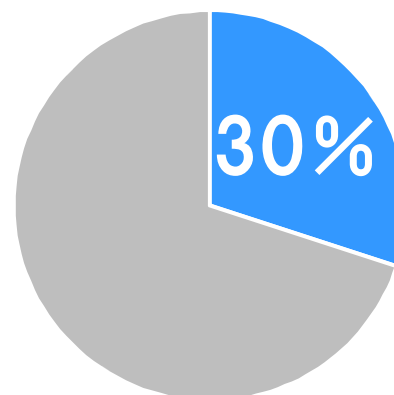


【2019年3Q実績】

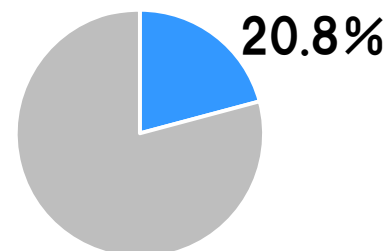


オリジナル製品比率
(売上高ベース)

【2020年 目標】

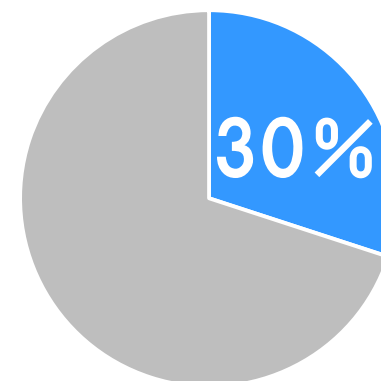


【2019年3Q実績】

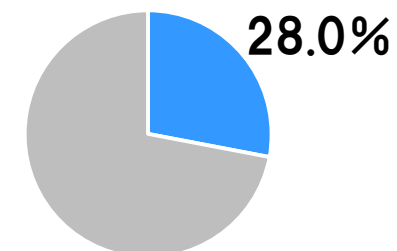


海外事業比率
(売上高ベース)

【2020年 目標】

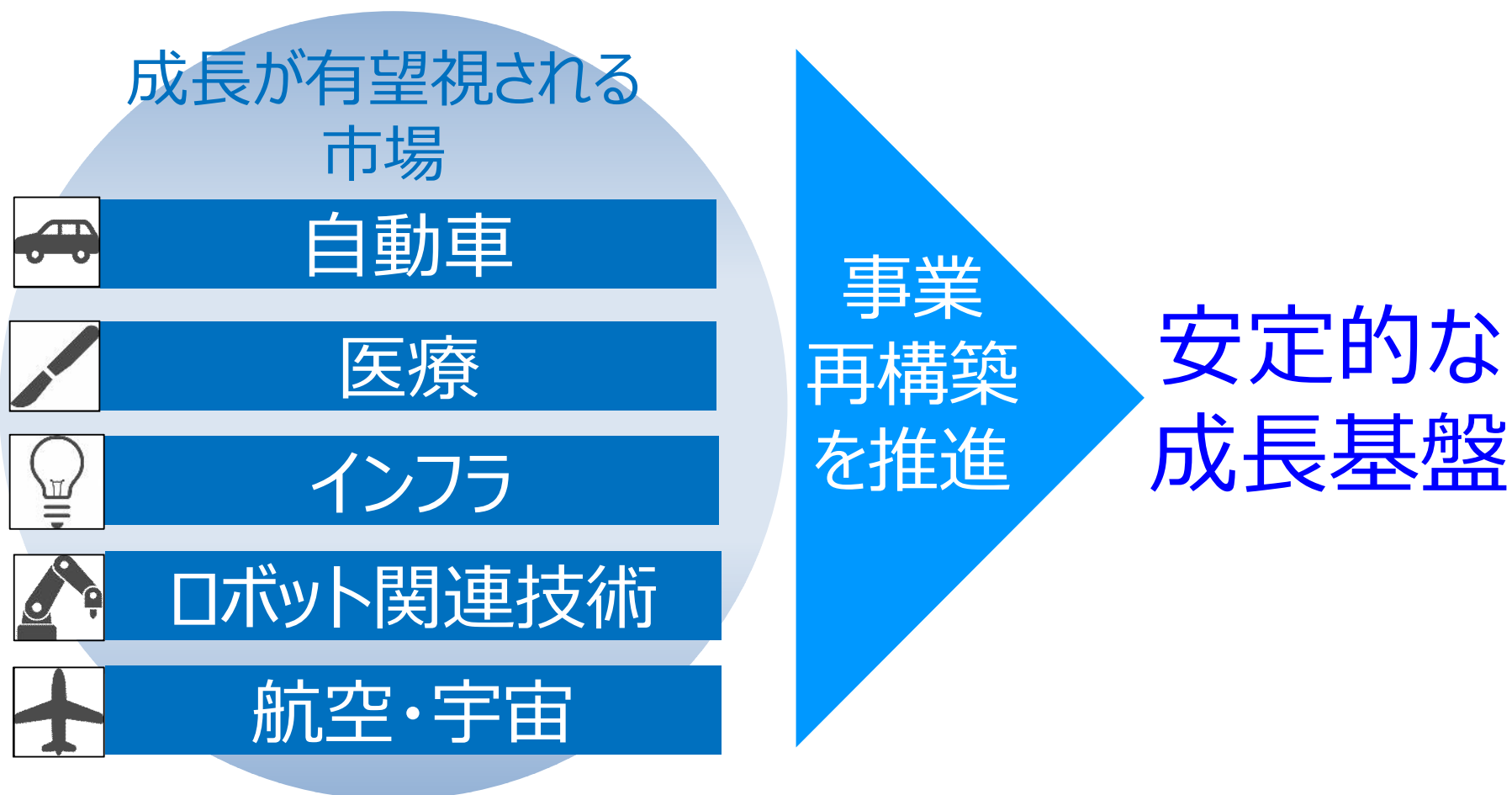


【2019年3Q実績】

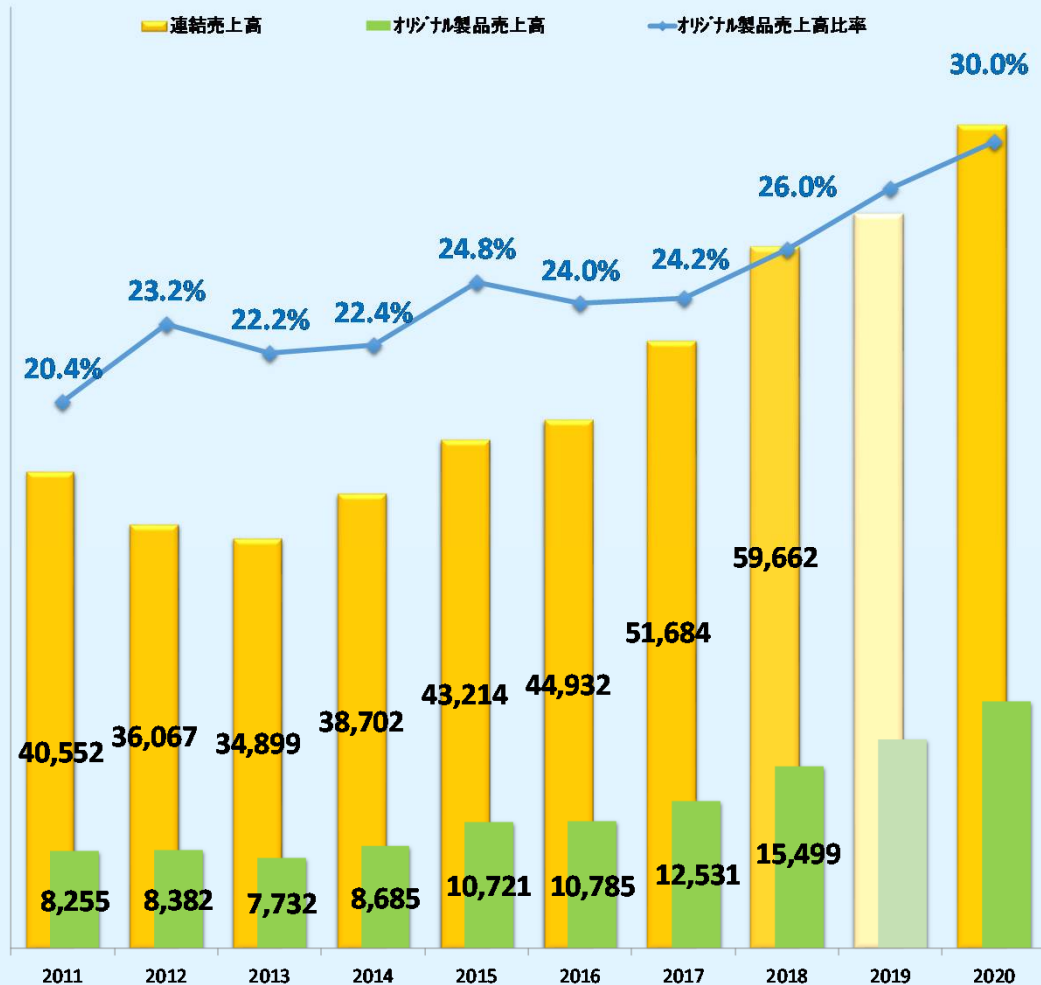


5つの事業戦略

- 1 成長性重視の事業の再構築を推進
- 2 オリジナル製品開発の強化
- 3 海外ビジネス展開の強化
- 4 マーケティング力 & 営業力の向上
- 5 生産部門の統合強化



単位(百万円)



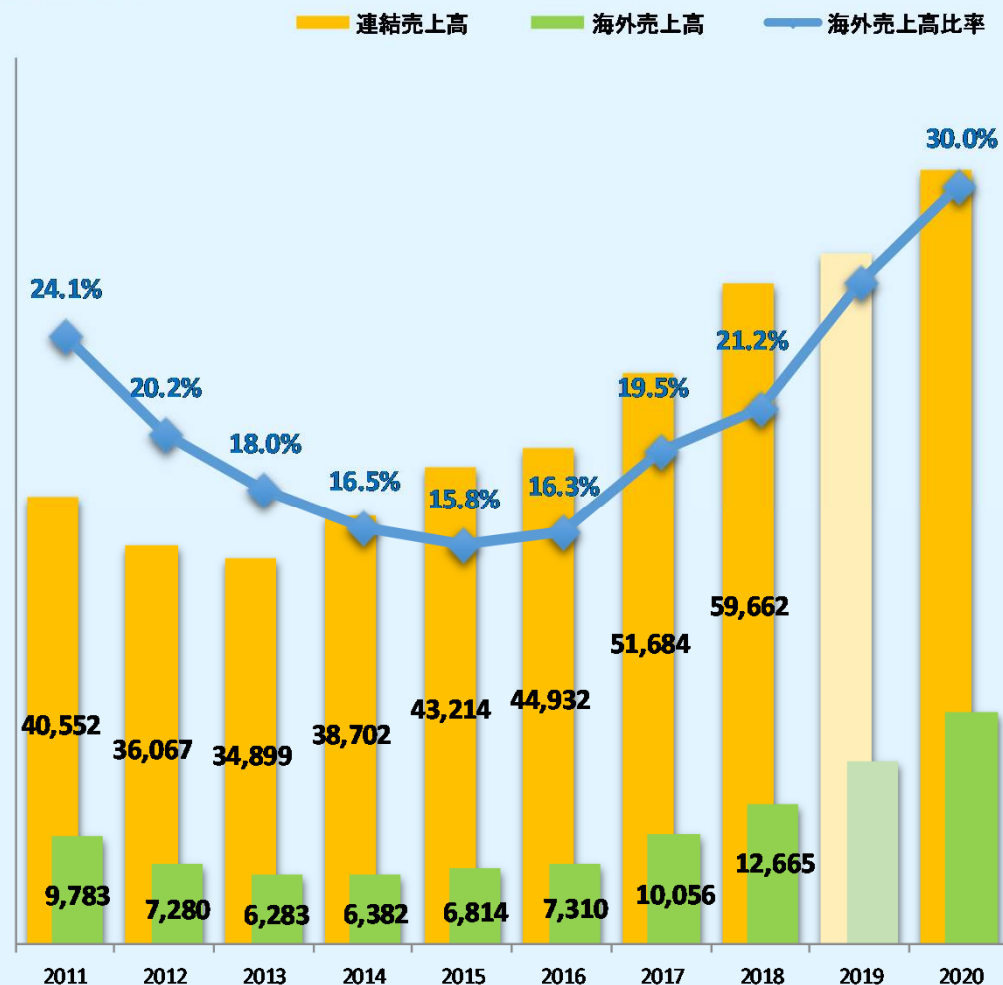
オリジナル製品比率
(売上高ベース)
2020年 30%を目指す

戦略ポイント

- ・ 独自技術・現行ラインナップ製品のブラッシュアップ
- ・ 新製品開発の強化（新分野）
- ・ 仕入先との連携強化による準オリジナルラインナップの充実

【基本戦略③】 海外ビジネス展開の強化

単位(百万円)



海外売上高比率
(売上高ベース)
2020年 30%を目指す

戦略ポイント

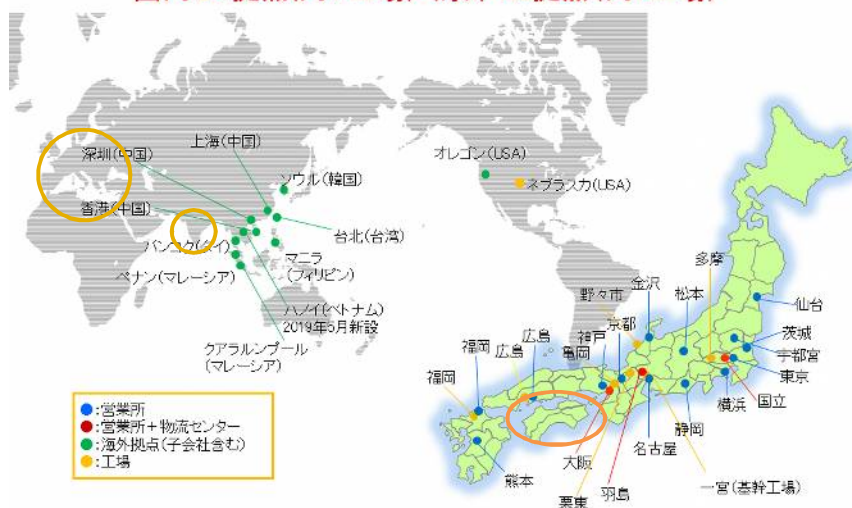
- ・ ローカル企業との取引拡大
- ・ 電子部品ビジネスの拡大
- ・ アウトーアウトビジネスの拡大
- ・ 地域独自のビジネスを推進
- ・ ネットワークの拡充

戦略 ポイント 1

国内外における 販売ネットワーク拡充

- 【国内】 ● 東北地方 仙台(2019年1月1日付新設)
● 四国地方
- 【海外】 ● ベトナム ハノイ(2019年5月1日付新設)
● インド ● 欧州 など

国内24拠点(内7工場)・海外12拠点(内1工場)

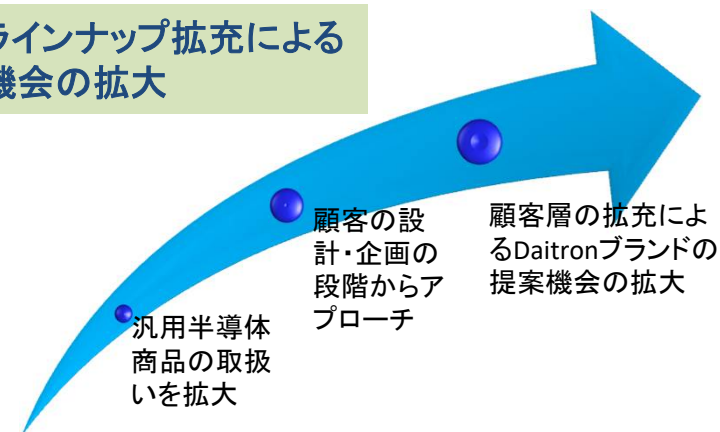


○ は調査中

戦略 ポイント 2

既存市場における プレゼンス向上

商品ラインナップ拡充による
提案機会の拡大



IoT展



国際航空宇宙展



中部工場（愛知県一宮市）

ダイトングループの
基幹工場として新設

**製造と開発の
中核拠点へ**



- (1) 中部第一工場 各事業(電源事業、航空機・車両用ハーネス事業、自動車関連事業)の生産拡大
- (2) 中部第二工場の竣工、稼働



中部第二工場外観



中部第二工場内 製造現場

【第一工場】電子機器・部品関連生産体制

⇒ 2016年11月稼働

【第二工場】装置関連生産体制

⇒ 2019年8月本格稼働

業績ハイライト

■ 第3四半期累計

売上高 45,357百万円

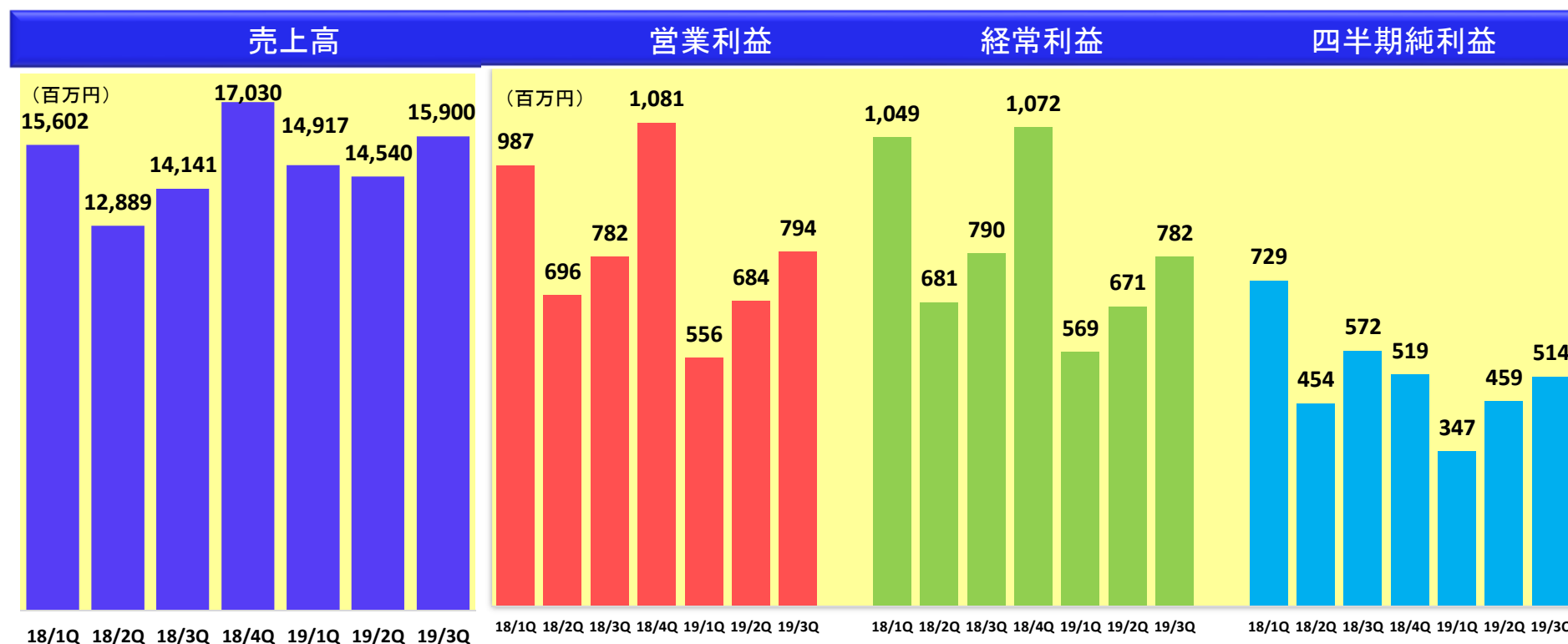
(前年同期比 106.4%)

■ 営業利益 2,034百万円
(前年同期比 82.5%)

■ 経常利益 2,022百万円
(前年同期比 80.2%)

■ 四半期純利益 1,320百万円
(前年同期比 75.2%)

四半期業績の推移グラフ



当社の事業構造 (19年9月末実績)



事業	商品セグメント別	売上高構成比	総利益率	オリジナル 製品比率	海外売上比率
電子機器・部品	電子部品 & アセンブリ商品	23.6% (前年同期 28.4%)	24.1% (前年同期 25.5%)	20.8% (前年同期 27.1%)	北米 2.4% (前年同期 3.3%)
	半導体	5.2% (前年同期 5.4%)	18.5% (前年同期 19.9%)		
	エンベデッドシステム	5.5% (前年同期 6.6%)	14.1% (前年同期 14.9%)		
	電源機器(グリーン・ファシリティー含む)	5.2% (前年同期 10.0%)	24.3% (前年同期 16.2%)		欧州 0.9% (前年同期 1.0%)
	画像関連機器・部品	20.7% (前年同期 22.7%)	14.8% (前年同期 16.6%)		
	情報システム	4.6% (前年同期 4.0%)	23.1% (前年同期 27.1%)		
	電子機器及び部品のその他	1.5% (前年同期 1.5%)	5.1% (前年同期 12.4%)		
製造装置	半導体・FPD製造装置	21.4% (前年同期 8.5%)	17.3% (前年同期 19.4%)		アジア 24.7% (前年同期 15.3%)
	電子部品製造装置	8.0% (前年同期 8.9%)	29.2% (前年同期 36.0%)		
	製造装置その他	4.3% (前年同期 4.0%)	16.7% (前年同期 20.3%)		
全 体		100.0%	19.7% (前年同期 21.6%)	20.8% (前年同期 27.1%)	28.0% (前年同期 19.7%)

は、当社オリジナル製品を含んだ商品セグメントとなっております。

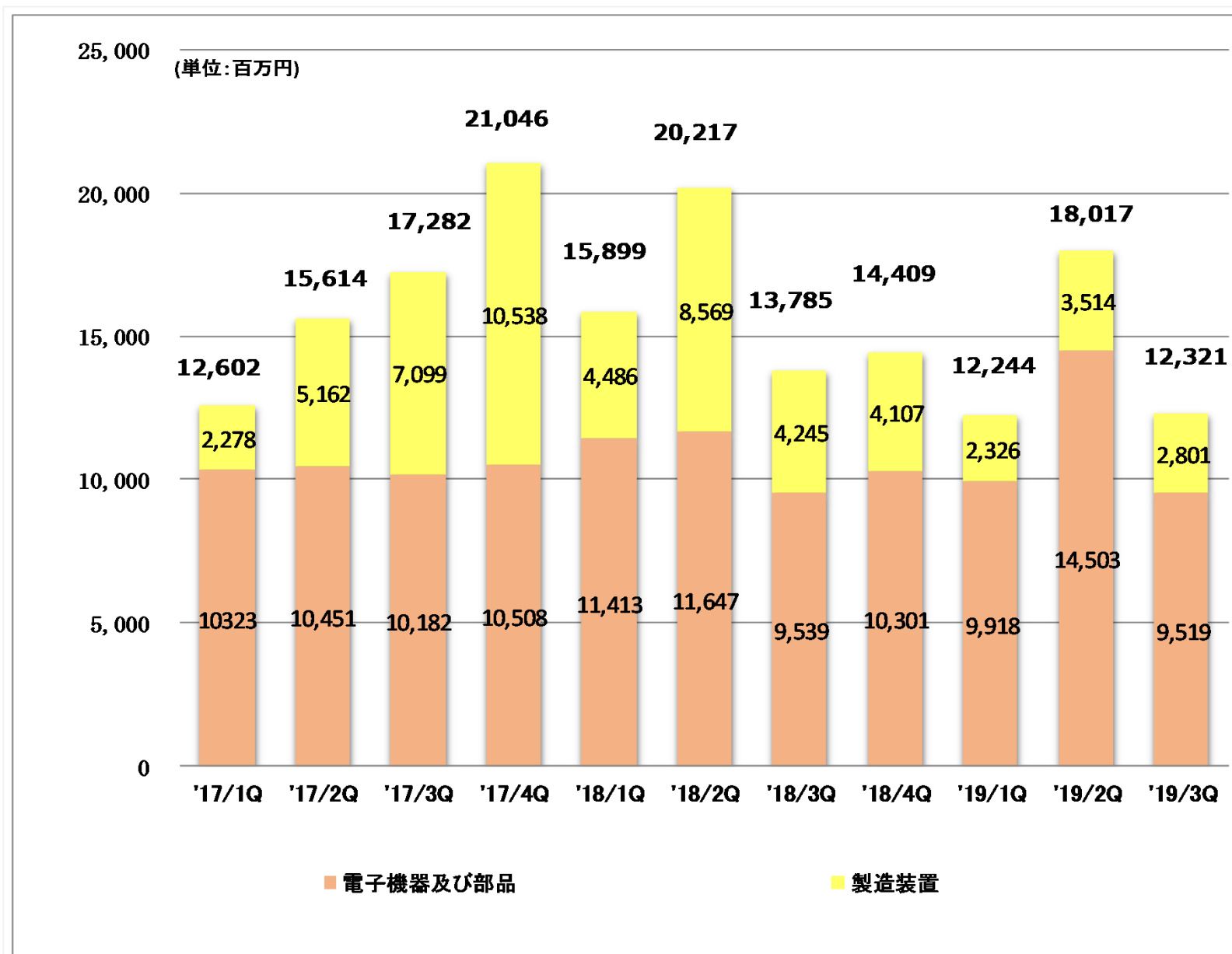
連結財政状態 前期比較



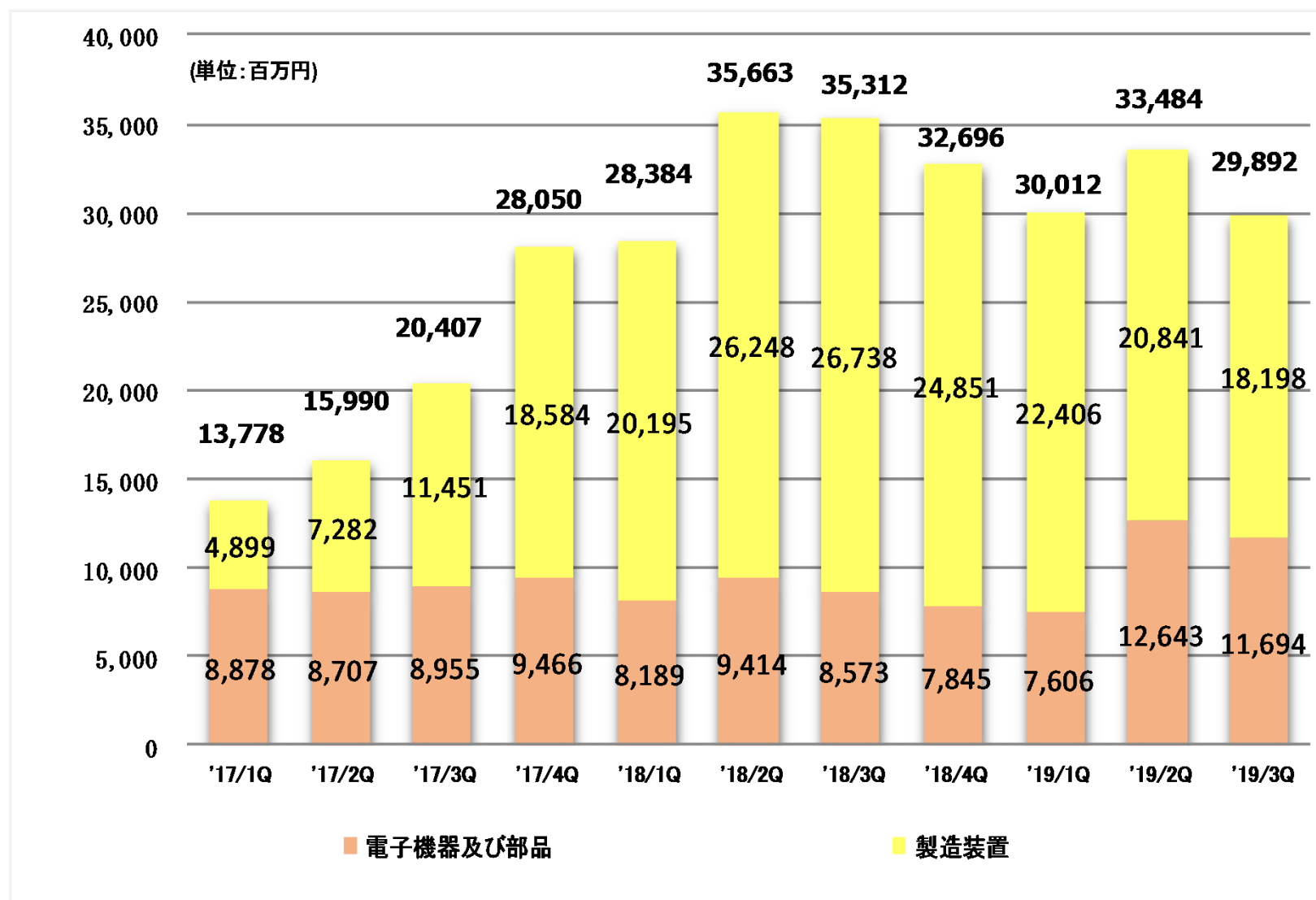
(百万円)	2018年12月期	2019年12月期 第3四半期	増減額
総 資 産	43,114	41,010	△2,104
負 債 合 計	26,137	23,291	△2,846
自 己 資 本	16,973	17,715	742
純 資 産	16,977	17,718	741
自 己 資 本 比 率	39.4	43.2	3.8Pt
一株当たり純資産 (円 銭)	1,530.94	1,597.45	66.51

四半期別 受注高推移

(商品セグメント別)



四半期別 受注残高推移 (商品セグメント別)



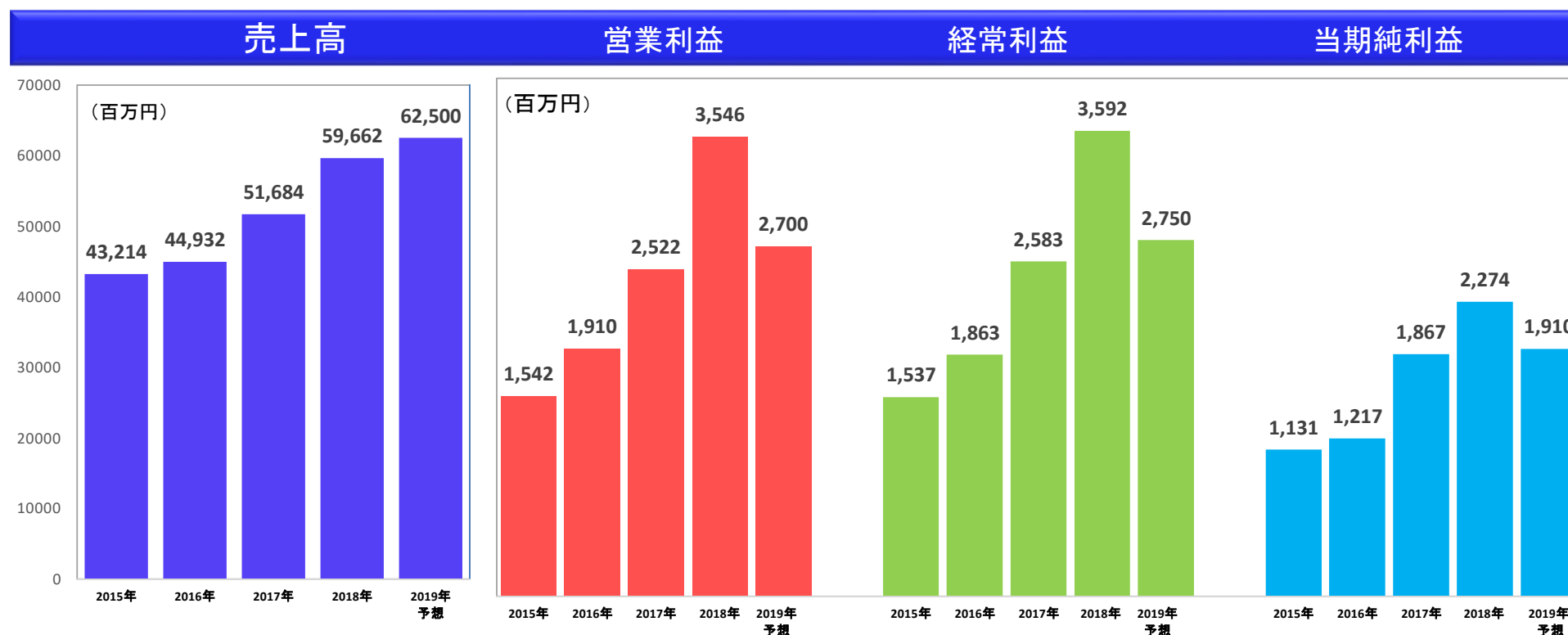
※2020年度以降納期の受注残が、電子機器及び部品には約4,936百万円 (内グリーン・ファシリティ 4,032百万円) 製造装置には、約11,446百万円含まれております。

■ 売上高 62,500百万円
(前年比 104.8%)

■ 営業利益 2,700百万円
(前年比 76.1%)

■ 経常利益 2,750百万円
(前年比 76.5%)

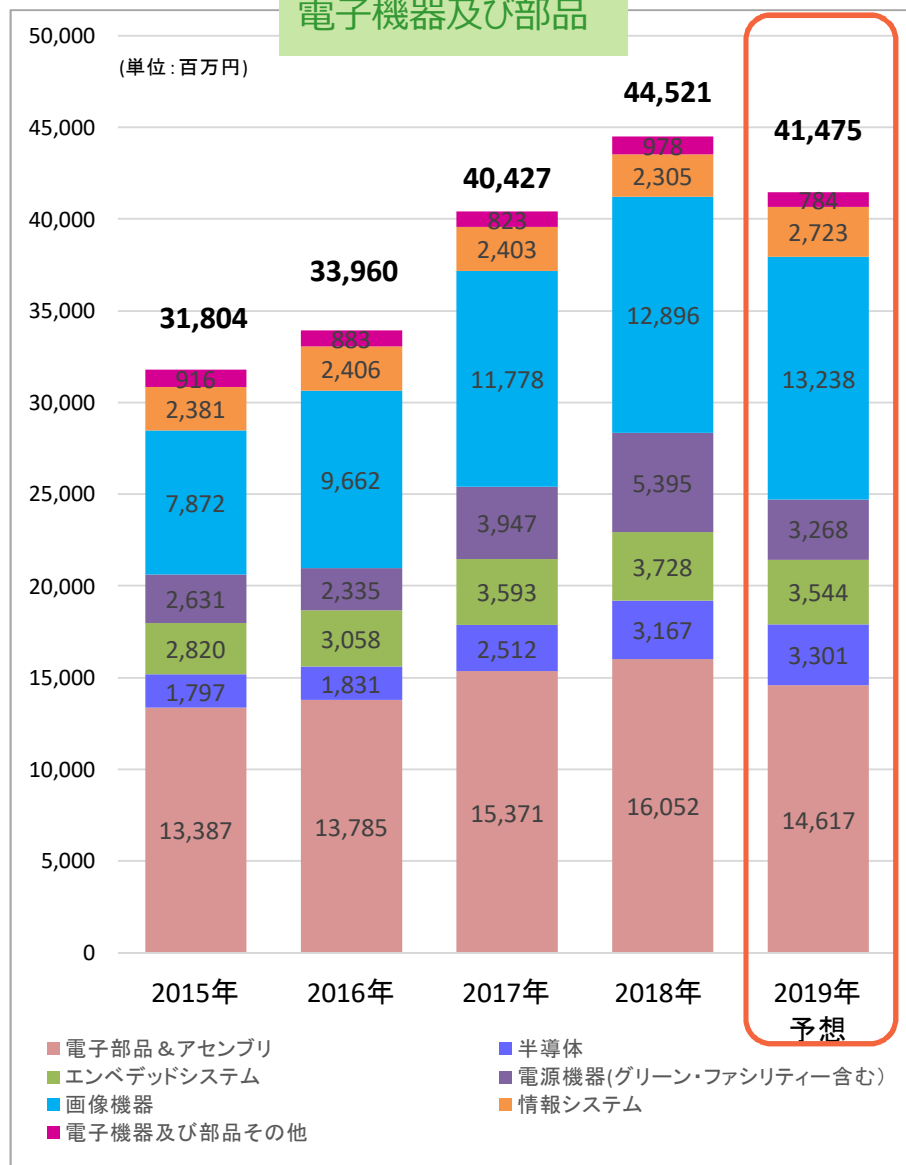
■ 当期純利益 1,910百万円
(前年比 84.0%)



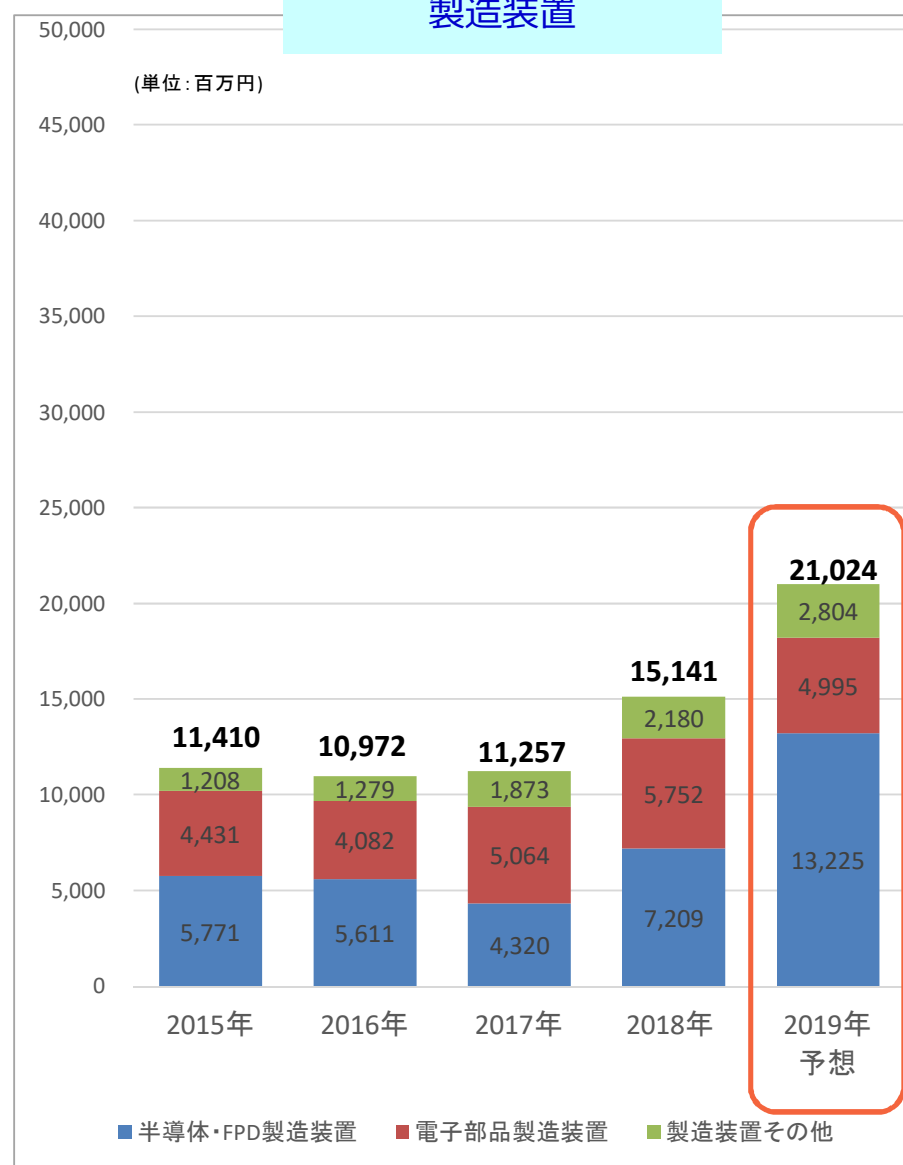
商品セグメント別業績推移・予想



電子機器及び部品



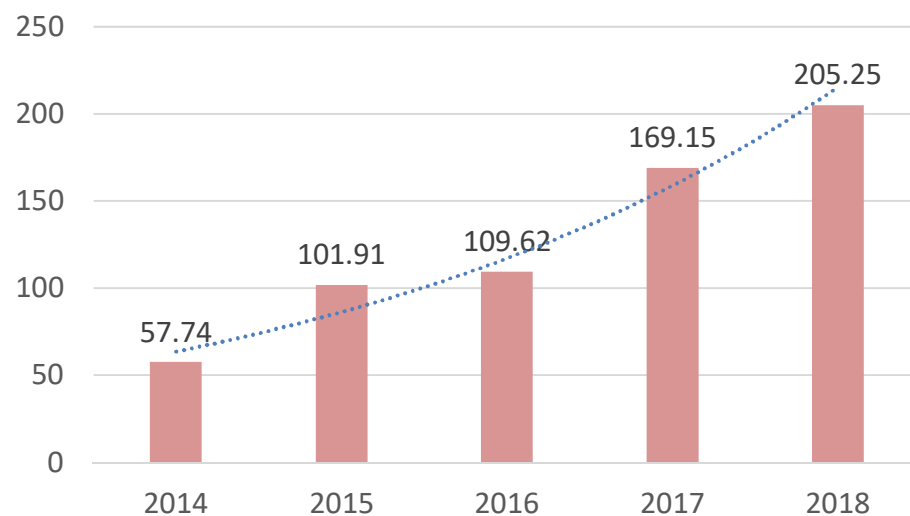
製造装置



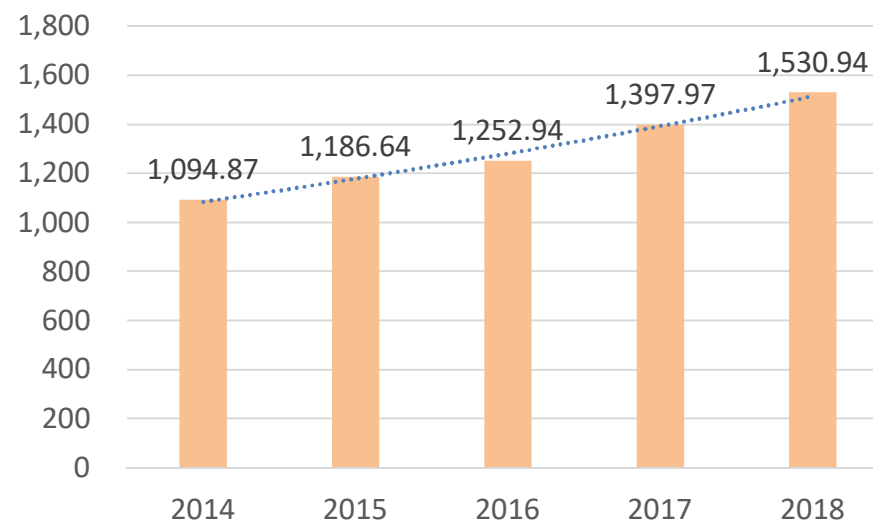
主な経営指標の推移



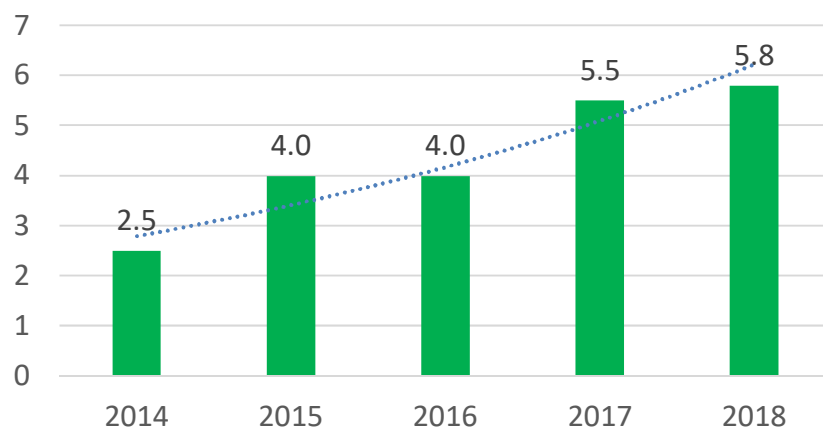
一株当たり当期純利益(円)



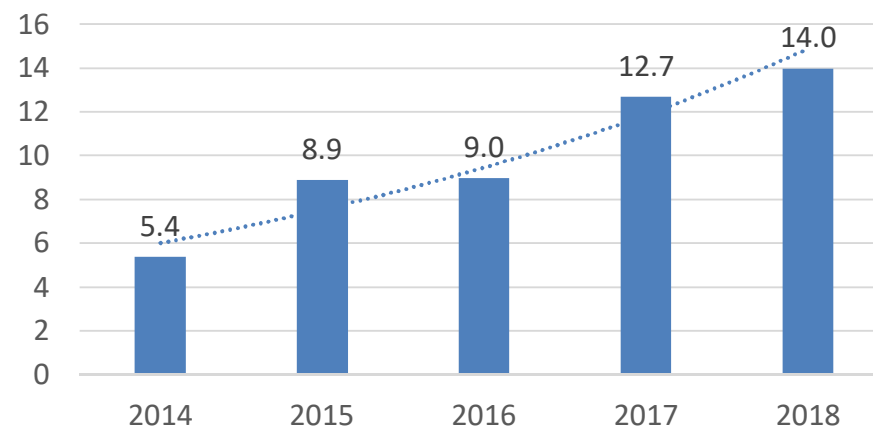
一株当たり純資産(円)



ROA(%)



ROE(%)



株式情報

配当について

	第2四半期末 (中間)	期 末	年間配当 (中間+期末)	当初予想	配当性向
2015年 12月期	0円	25円	25円	15円	24.5%
2016年 12月期	0円	30円	30円	20円	27.4%
2017年 12月期	15円	30円	45円	30円	26.6%
2018年 12月期	20円	35円	55円	50円	26.8%
2019年 12月期 予想	25円	35円	60円		34.8%

※ 2017年12月期より中間配当を実施

株式の情報



(2019年6月30日現在)

上 場 市 場
証 券 コ ー ド
単 元 株 数
発 行 済
株 式 総 数
株 主 数

東京証券取引所 1部

7 6 0 9

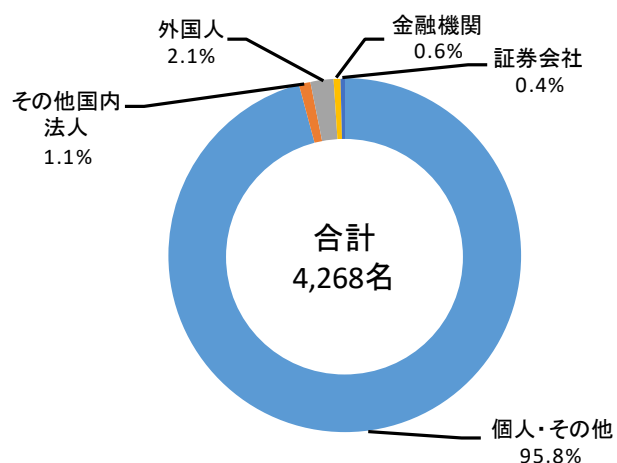
1 0 0 株

1 1, 1 5 5, 9 7 9 株

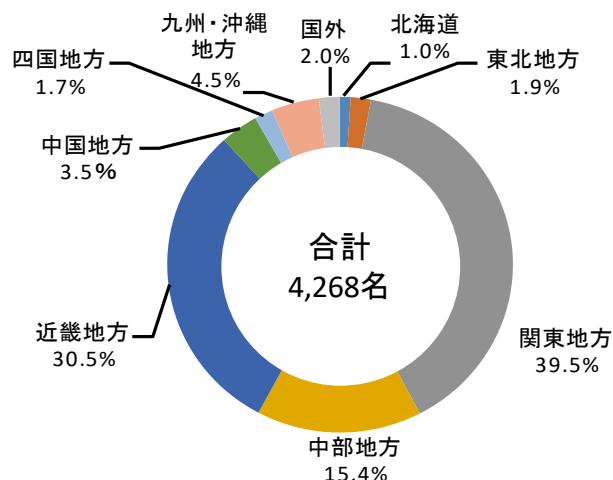
4,268名

【株主構成】

【所有者別株主分布】



【地域別株主分布】



□大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,039	9.4
公益財団法人ダイトロン福祉財団	1,000	9.0
大森 有紀子	503	4.5
株式会社みずほ銀行	399	3.6
株式会社三菱UFJ銀行	363	3.3
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	352	3.2
ダイトロン従業員持株会	319	2.9
BBH LUX/DAIWA SBI LUX FUNDS SICAV-DSBI JAPAN EQUITY SMALL CAP ABSOLUTE VALUE	244	2.2
ダイトロン取引先持株会	183	1.7
日本生命保険相互会社	181	1.6

□株主様アンケート結果

株式の購入理由

1位 将来性	24.9%
2位 配当	17.0%
3位 事業内容	15.1%
4位 収益性	11.1%
5位 株価の割安感	8.3%

第67期年次報告書 株主様のアンケート結果(回答数:787名)

この資料で述べられている将来の当社業績に関する見通しは、現時点で知りうる情報をもとに作成されたものです。

当社が位置するエレクトロニクス業界の電子機器・部品産業並びに製造装置産業は、テクノロジーの変化やスピードが大変速く、競争の激しい産業です。

また、北米やアジア諸国の経済情勢など、当社の業績に直接的・間接的に影響を与える様々な外部要因があります。

従いまして、今後、当社の業績の見通しが本資料と異なる可能性があることをお含みおき下さい。

《本資料並びにIRに関するお問い合わせ先》

経営管理部 IR担当

TEL: 06-6399-5952

FAX: 06-6399-5962

e-mail: info.ir@daitron.co.jp

Creator for the *NEXT*